♪「五十嵐美穂 Accordion Recital」ぶらり訪問記♪

日時　2012 年 5 月 22 日（火） 19:00 開演
会場　めぐろパーシモンホール（小ホール）

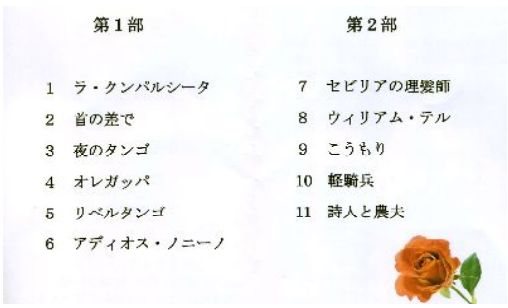
開始時刻には 200 席程のホールがほぼ一杯になっていました。回を重ねるごとにお客さんが増えているように感じました。

プログラムは、休憩を挟み２部に分かれていて、第 1 部はタンゴを 6 曲（ラ･クンパルシータ／首の差で／夜のタンゴ／オレガッパ／リベルタンゴ／アディオス･ノニーノ）を情熱を表す赤いドレスでの演奏でした。

あいにくの雨天で、肌寒い一日だったので、このような陽気だと女性は衣装に困るのではと余計な心配をしましたが、第 2 部は、鮮やかなブルーに着替えて登場。（ロッシーニの「セビリアの理髪師」と「ウィリアム･テル」／ヨハン･シュトラウスの「こうもり」／スッペ作曲の「軽騎兵」と「詩人と農夫」）序曲を集めて 5 曲演奏しました。以前、リサイタルの中のトークで、序曲は大変だけど好きなんですと話していたのを思い出しました。

曲を弾き終わるごとに、しっかりジャバラを閉じて１度ホックで止めて汗をぬぐいながら１曲１曲に、外国で過したときの想い出や、家族のこと、また、編曲の想いや演奏上の課題、聴き所などの直な話が付いていてトークもとてもさわやかでした。演奏曲を暗譜するだけでなく、合間に話す内容までしっかり記憶されていて感心します。

プログラム



第１部	第２部
1　ラ・クンパルシータ	7　セビリアの理髪師
2　首の差で	8　ウィリアム・テル
3　夜のタンゴ	9　こうもり
4　オレガッパ	10　軽騎兵
5　リベルタンゴ	11　詩人と農夫
6　アディオス・ノニーノ	

演奏者もトークの中で、以前は 1 曲弾き終わると息が切れていましたと述懐していますが、今回も、お決まりの全て暗譜で、全て立奏です。（これは講師、平山尚氏の指導方針のようです）（演奏の写真はチラシより転写）

タンゴと序曲で構成されているので、講師が提唱する強拍を意識した“アタック奏法”が活かされた演奏だったと思います。右手も左手もとってもしなやかで、左手などは指が動いているように見えないのに音はしっかり聴こえていてただただ感心して、聴いていたというよりは左手の無駄のない動きに見惚れてしまいました。

帰り道、一緒に聴いた仲間と夕食代わりに居酒屋で 1 杯飲みながら演奏の感想を話し合いました。その中で、スイッチの切換が沢山ある曲があったけど、気分を切り替えるために計算して間合いをとっているのか、中に、「曲の流れがその為に一瞬途切れたように感じる所があったのは惜しかった」という話がありました。

もう一つは、演奏中の笑顔について、演奏者自身、友達から「無理に笑顔を作ると怖い顔になる」と言われたトークの中で紹介されていましたが、とっても自然な表情を出している演奏曲もあるので、無理に笑顔にならなくちゃと思わなくても、自然な形でいいんじゃないのという感想もありました。

いまだ発展途上で、年々上手くなっているなあと感じます。また次回のリサイタルが楽しみになりました。最後は、会場の皆さんで「上を向いて歩こう」を歌い終了となりました。（乙津：記）

プログラムに関東アコが企画する「第 24 回関東アコーディオン演奏交流会のチラシ」を挟み込んで頂いた上に、演奏の合間のトークの中でも出場者募集について触れて下さいました。心遣いに感謝いたします。